



とらいあんぐる



2014 年 9 月

一音会ミュージックスクール発行

「夏休みの宿題」

終わりましたね？

夏休みの宿題のことです。本当におつかれさまでした。

子どもにとって、夏休みの宿題は、もはや夏の風物詩です。私も、子ども時代には、苦しめられたこともありました。

定番は、勤勉さと誠実さをためされる日記でしょうか。

つい何日か、書き忘れ、あとからまとめて書いたこともありました。

しかし私の場合、毎日、まったく同じ生活をしていたので、書き忘れて困るのは、お天気ぐらいでした。

ほぼ同じ日が続く私の夏休みですが、すべてを正直に書いた年、先生に「あ

なたって人は、本当に毎日ネコと遊んでばかりなのね！ ほかにすることはないの？」と、あきれられたことがありました。

翌年から変化をつけるために、用もないのに、近所をお散歩したり、お友達の家をたずねたりしました。

「アッコ、どうしたの？」

「日記に書くから、今日、遊んだことにしておいて」

それだけ告げて帰ります。

こうして、裏付け工作もきちんとしておくのです。

同じクラスですから、先生に裏をとられるかもしれません。

日記と同様、ドリル類も定番です。

しかし、日記もドリルも、やるべきことがはっきりしているので、さほど

負担にならないものです。

夏休みの宿題の大物といえば、やはり自由研究と読書感想文でしょう。

1年に1度、有無をいわせない感じでやってくる大物です。

私が子どもの頃も、毎年、出された宿題でしたし、今もそれは変わらないようです。

私は実は、自由研究が大好きでした。

毎年、楽しく取り組みました。自由な感じが好きだったのです。

自由研究は、子どもらしいマヌケな研究でも、ほとんどとがめられることはありません。

普通の宿題では、求められていないことをすると、とがめられるのに、自由研究の時だけは、やけに寛容です。

まるで先生方の間で、「子どもの好奇心を否定してはいけない」というルールがあるかのようにでした。

普通の宿題も、このくらい自由にさせてくれればいいのにと、よく思ったものです。

私の自由研究は、本当に自由でした。よく覚えているのは、「ネコの目の研究」です。

小学校2年生か3年生くらいのことだったと思います。

ネコの黒目の部分の大きさが、明るさで変化することはよく知られていま

すが、それを毎日、ほぼ1日中、記録し続けました。

とにかく私はヒマですし、ネコもヒマです。ネコとは24時間、一緒にいるので、いくらでも克明な記録をつけることができましたのです。

時間、天候、場所など、明るさに影響する情報とともに、ネコの目をスケッチし続けました。ネコが寝ている時は、無理やり起こしました。

40日間にわたってスケッチした大量のネコの目の絵を、明るさと連動していることを示して、まとめます。作業量のわりに、たいした結論ではないのですが、楽しい作業でした。

ほかの年も同様で、どれもたいした研究ではないのですが、熱中しました。

対して、読書感想文は、あまり楽しくない宿題でした。

「アヤコちゃんは、本が好きで、たくさん読んでいるから、読書感想文は簡単でしょう？」

よくいわれました。しかし、そんなことはないのです。

まず、私が好んで読んでいたのは、推薦図書ではありませんでした。

人が1冊の中で、少なくとも、3～4人は殺されるような話ばかりです。

娯楽ミステリーは、いかにも読書感想文にふさわしくないと思われました。

推薦図書の中にも、読んだことのある本はあったのですが、正直、感想文を書きたい気持ちになるものがありませんでした。

推薦図書には、戦争にかかわるノンフィクションも多くありましたが、あまりに悲しくて、二度、読むことができませんでした。思い出すのもつらく、とても感想文が書ける心境ではありません。

そうなる、とても困るのです。

以前に「とらいあんぐる」で書きましたように、当時、私は1日1冊以上、本を読んでいました。それでも、感想文が簡単に書けるかという、それはやっぱり違うのです。

何の本で書くか・・・これが最大の問題でした。考えれば考えるほど、深く悩んでしまいます。

そこで、私は1つの実験を試してみることにしました。

テーマは、「読書感想文の本として、どこまで認められるか」です。

推薦図書とはいっても、かならず推薦図書で感想文を書かなくてはいけない、というわけでもなさそうでした。あくまでも参考として、挙げられていただけでした。

最初の年の試みは、笑い話集にしました。

古今東西の笑い話を集めた本は、私の愛読書の1つでした。

困ったのは、短い話を集めたものですので、感想としてまとめにくかったことです。

しかし、実験のためと思えば、何ということもありませんでした。これが認められるかどうか、知りたい興味が勝りました。

これは先生から何も注意を受けませんでした。難なくクリアです。

次の年は、江戸川乱歩の作品を取り上げてみました。江戸川乱歩は、「怪人20面相」など、子ども向きの作品で知られていますが、そうでない作品も多く、私が取り上げたのは、もちろんそうでない方です。

「これは、アウトだろうなあ」と内心、思っていました。先生に注意されたら『少年探偵団』が良くて、これがダメなのはなぜですか？」と、きいてみようと思っていました。

しかし、きく機会はありませんでした。何も注意されなかったのです。

これが認められるなら、何でもありなのではないか、と思いました。

さらに実験を進めるにあたって、次の年はとても悩みました。その前年、江戸川乱歩という、内容的にかなり思い切ったことをやってOKだったので、

それをこえる冒険を、なかなか思いつきません。

そこで方向性を変え、「方丈記」を取り上げてみることにしました。4年生だったと思います。

「4年生で古典なんてすごい！」…ということは、まったくなく、ちゃんと現代文対訳が出版されているのです。しかも、現代文にすると、とても短いのです。

これも、何も注意されませんでした。「現代文でなくても良い」という貴重な結果を得ました。

そうこうするうちに私は6年生になり、この何年かにわたる実験の集大成をおこなわなければならなくなりました。

いろいろやりつくした結果、本なら何でも良いかのようになっていました。もはや聖域は「読書」だけです。

そこで私は、本を読んで感想文を書くことをやめ、テレビの感想文を書くことにしました。

もう、崩すところが、そこしかなくなっていたのです。

当時、観ていたドラマの感想を書いたのですが、誤解がないよう、テレビ番組であることを、あえて感想文のあちこちに書きました。

さすがにこれは怒られるだろうと思

っていました。だって宿題は、「読書感想文」なのですから。

先生に注意されたら、素直にあやまって、書き直そうと思っていました。

しかし、やはりというべきか、書き直す機会はありませんでした。

何も注意されなかったのです。

かくして、私の実験「読書感想文の本として、どこまで認められるか」は、「本でなくてさえ良い」という、思いもよらない結果となりました。

当時は、寝た子を起こすようで、きけませんでしたが、なぜ先生が「テレビ感想文」を認めてしまったのか、先生にきいてみたかった気がします。

今、思いますと、この読書感想文に関する実験こそが、私の小学校時代の最大の“自由研究”だったのかもしれない。(江口 彩子)



◆ピアノ発表会では、ご協力をありがとうございました

8月1日から4日間にわたっておこなわれた「ピアノ発表会」が、無事、終わりました。連日の酷暑の中、たくさんの方が足をお運びくださいました。

大勢の方がごったがえす中、一人のケガ人を出すこともなく、無事にすべての日程を終えることができましたのは、生徒さんやご家族のみなさまの、多大なご協力あつてのことです。本当に、ありがとうございました。

今年の発表会で、生徒さんの演奏レベル、精神レベルの高さを、あらためて強く感じました。手前みそになりますが、「一音会の発表会は、レベルが高い」と、一音会以外の方からよくおっしゃっていただきます。今年も、多くの方から、そうしたおほめの言葉をいただいています。また生徒さんのご家族からも「うちの子は、学校で一番ピアノが上手ということで、普段、みなさんに注目していただいているのですが、一音会に来ると、生徒さん全員がお上手ですね！」という言葉いただきました。

単に「難しい曲を弾く」ではなく、すみずみまで丁寧な練習を重ね、音楽的な表現をのせて、仕上げるできています。この点は、一音会がもつとも誇りとするところでは。

そして、まだ小さな生徒さん、プレッシャーを感じるようになってきた少し大きな生徒さん、大曲をかかえる大きな生徒さん、・・・それぞれの闘いは質の違うものですが、強い心で舞台をふんでくれました。心も強く育っていることを確信し、嬉しく思いました。

スタッフ一同、この喜びを胸に、また日々の指導に全力を尽くします。来年の発表会は、2015年7月30日、31日、8月1日、2日の4日間、場所は「成増アクトホール」です。また1年後、さらに成長をとげた生徒さんにお会いできるのを楽しみにしています。



◆「ピアノ・トライ」をおこないます

先号でもお知らせしましたように、今年も秋に、「ピアノ・トライ」をおこないます。発表会がまだ終わったばかりではありますが、大きな舞台の経験をのりこえた後、今度はエチュードやバッハといった、音楽の教科書で、しっかり足元をかためることは、とても意味のあることです。ぜひ「ピアノ・トライ」で、先生からアドバイスを受け、練習にいかしてください。

(1) 電話申込み

10月1日(水)

10月4日(土)

※ 両日とも朝 10:00～夕方 16:00 までの受付、各日先着順

(2) 日程 (全て「バッハはうす」でおこないます)

11月 8日(土) (土2・4) 初級・中級 (山本先生予定)

11月 9日(日) (日②) 初級・中級 (夏目先生予定)

11月16日(日) (日①) 中級～ (夏目先生予定)

11月24日(祝・月) 初級・中級 (能勢先生予定)

11月29日(土) (土1・3) 初級・中級 (山本先生予定)

11月30日(日) レッスンなし 中級～ (夏目先生予定)

※ 進度は目安ですので、日程的なご都合を優先していただいて大丈夫です。

進度の大きく異なるご兄弟を、同じ日の時間帯にお組みすることもできます。

(3) 料金

2160円

※ 当日、封筒に記名し、なるべくおつりの無いようにお持ちください

(4) 課題曲

バッハの作品、もしくはエチュード。

ただし、絵音符の生徒さん、まだ五線の曲に入ったばかりの生徒さんの曲目は自由です。

◆アンデルセン先生が来日します

12月に、客員教授のダイアン・アンデルセン先生が来日されます。

コンサート：12月7日(日)

レッスン：12月9日(火)・10日(水)



Diane Andersen

デンマークで生まれ、3歳の時からピアノを学び、13歳で王立ブリュッセル音楽院入学、18歳で卒業という天才ぶりを発揮。シュテファン・アシュケナージに師事。

パルトークの友人で彼のデュオ・パートナーであったヴァイオリニストのアンドレ・ゲルトラーとの数多くの共演で、パルトーク作品解釈のオーソリティとなる。

これまでにサヴァリッシュ指揮のスイス・ロマンド管弦楽団とのモーツァルト演奏、ブーレーズとのベルク作品の演奏など、著名な作曲家自身との共演をしている。

ベルギーの著名な作曲家ヨーゼフ・ヨンゲンピアノ作品全集、エルンスト・トッホのピアノ協奏曲第2番及びピアノ5重奏曲、女史に献呈されたピアノ協奏曲・ソロ作品を録音。また、エミール・グエのCDを2012年3月にリリース(ネットにて絶賛発売中)。

王立ブリュッセル音楽院教授としてのキャリアを評価され、これまでに世界各地のマスタークラス、公開講座に招かれ数多くの若手育成、またエリザベート王妃国際コンクールをはじめ世界の主要国際コンクールの審査員を務めている。一音会客員教授。

たいへん高名な先生ですが、も
お受けいただけます。

なお、アンデルセン先生のレッスンを受けた方は、アンデルセン先生の推薦で、「ル・コンセール」に出演できます。

レッスン料金

30分レッスン……レッスン料(12500円) + 通訳(2500円) → 計15,000円

60分レッスン……レッスン料(25000円) + 通訳(5000円) → 計30,000円

◆「音楽の集い」を開きます

今年も11月3日(月・祝)に、「音楽の集い」を開きます。「音楽の集い」は、おとなの方の発表会です。会場は「ひびきホール」です。時間等、詳細は、教室

内のポスターで、お知らせする予定です。

例年、一音会では、「文化の日」を、音楽を心から愛する方々が集う日としています。ぜひふるってご参加ください。演奏される方は参加費として、6000円（DVD 希望の場合は1080円追加）をご負担いただきます。入場無料ですので、お気軽に足をお運びください。

基本的にはピアノの発表会ですが、他の楽器や歌でのご参加も大歓迎です。また、一音会でレッスンをお受けになっていなくても、一音会にお通いの生徒さんのご家族であれば、どなたでもご参加できます。

日ごろ、楽器や歌をお楽しみのご家族のみなさま、この機会に舞台上がってみませんか。伴奏者が必要であれば、スタッフが伴奏いたしますので、ご遠慮なく本部までご相談ください（担当者：普久原・森田）。

スタッフも、参加する予定です。音楽を愛するおとなどうし、楽しい時間を過ごしましょう。



スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週水曜日の午後7時半～9時半です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。